

双信電機(株)における構内PHS導入

平成12年12月11日

会社名 双信電機株式会社
代表者名 代表取締役社長 山本 茂雄
(コード番号 6938)
問合せ先 総務部長 荒田 和夫
電話 03-3775-2111

1. 導入の経緯

- ・当社は平成12年度の経営方針の中にある「ITの活用による業務改革」の一環として構内PHSの導入をグループ全体で推進しています。
- ・具体的には、本社、長野県下の2工場(浅間工場、千曲工場)、宮崎県下の1工場(宮崎工場)、及び宮崎県下の2つの子会社(エムエレクト株、高信エレクトロニクス株)の6拠点。
すでに、11月に本社、浅間工場、千曲工場を導入しており、12月には宮崎地区でも導入しグループ全体での導入を完了する予定です。
- ・投資内容 自動交換機(PBX)及びルータ等周辺機器 6事業所分
PHS端末 約400台
新規のデジタル電話機 70台
投資金額 約4,000万円

2. 構内PHS導入のメリット

- ・構内PHSを簡単に説明すれば、会社内で各人が使用している内線電話がPHSとなり、社内では内線電話として、また会社の外ではPHSとして使用できるというものです。
- ・構内PHSは1工場内だけで導入してもある程度の業務効率化が期待できますが、その効果を最大限に引き出すために今回グループ全体での導入に踏み切りました。
- ・期待できる効果は次の通りです。
 - (1)CSの向上
席を離れる時も構内PHSを携帯することにより外線が受けられ、構内放送での呼出や折り返し電話でお客様をお待たせする事なく、スピーディーな対応ができます。
 - (2)業務の効率化
グループ会社間のローミング(専用線接続)を行うと、構内PHSをどこの工場でも同じ内線番号で使えるようになります。電話を掛ける側は、在席、出張中を意識することなく本人と話すことができます。
(例えば、Aが本社の内線番号100の構内PHSを携帯して工場に出張し、それを知らないBが本社のAの内線100に電話をかけても工場にいるAに内線がつながります。)
 - (3)通信関連コストの削減
 - ①内線電話機をPHSにすることにより、レイアウト変更による電話配線工事や休日出勤が削減できます。
(工事費削減の推定額 年間200万円)

3. 今後の予定

- (1)上述したグループ間のローミングを平成13年1月より開始する予定です。
- (2)グループ全体で400台PHSを導入することにより、今後はモバイル・コンピューティングへの展開を図ります。(PHSを使った営業と工場の電子情報の受発信等)

以上